

ラブエフェム国際放送

事業の名称

社会をカエるラジオ 夏休みフォーラム 2021

共同で事業を実施した団体

九州大学共創学部

事業概要

「メディアのプロと考える これからの課題の“伝え方”」と題して、2021年10月2日に当社のYouTube Channelで生配信を実施しました。

【名称】社会をカエるラジオ 夏休みフォーラム 2021

【実施日】2021年10月2日（土）13:30～15:30

【場所】LOVE FM Official Channel（オンライン・YouTube Live）

【テーマ】メディアのプロと考える これからの課題の“伝え方”

『ケロケロ見聞録』は、当社が九州大学の学生らと一緒に企画・運営している番組です。これまで「共創」「まちづくり」「防災」「ダイバーシティ」「ソーシャルメディア」をテーマに、様々な議論を重ねてきました。各業界で活躍する社会人の方々から貴重な話を聞いたり、また、ある時は現役大学生同士が議論したりして考えを深めています。

2021年10月に実施したオンラインフォーラムでは、「前例のない社会をこれから生き抜くために、現在・将来の社会課題とは何か？」をテーマに、ゲストを招き、学生とリスナーの皆さんと一緒に考えることを目的として、3部構成で生配信を行いました。

第1部「みんなで考える社会課題とは」では、コロナ影響により陰に隠れてしまった社会課題について、事前にWebアンケートを行い、生配信で結果を発表しました。

第2部は「伝えることから始まる課題解決方法 ～ゲストからの提言～」と題して、ラジオ・新聞・Webなどの媒体で情報を“伝える”プロをゲストに招き、伝えることの重要性について話を聞きました。

第3部は「Z世代が活躍する社会づくり～学生議論～」ということで、第1部、第2部で出た話題から、これからのメディア活用と今後どのように社会課題を伝えていくかについて、学生を中心に議論を深めました。



事業の成果

学生らは、事前に福岡県内の高校（約150校）に、配信の告知、アンケート参加のお願いをするなど周知・広報に努めました。その結果、生配信中は、YouTubeのコメント機能での参加をはじめ、SNSなどを通じて多くのリスナー（ユーザー）から、意見・感想が寄せられました。意見・感想の一部は、生配信の中でも取り上げて盛り上げを図りました。

配信後には、参加いただいた学校から「とても参考になった」等の感想が寄せられました。大学進学を目指す高校生にとっては、現役の大学生の学ぶ姿を知るだけでなく、自身の意見や考えなど披露する機会となったと考えています。生配信した映像は、アーカイブとしてチャンネル内に保存し、どなたでも今回のフォーラムに触れてもらえるようにしています。（<https://www.youtube.com/watch?v=qWvGtZmPA1E&t=1647s>）

以下は今回のフォーラムの企画・運営に参加した学生の感想です。

- ・ 普段はチームごとでの活動がメインだが、イベント準備はチームを横断して取り組む機会になった。
- ・ ゲストの方や民放連とのつながりができた。
- ・ 高校に向けて広報活動をしたことで、高校生に番組を知ってもらうきっかけ作りができた。
- ・ ラジオ番組とは違う形での発信ができた。
- ・ （ラジオとは違い）顔を見せながらの配信だったため、パーソナリティーをより知ってもらう機会になった。
- ・ リアルタイムで参加者をつながることができた。
- ・ ラジオよりYouTubeの方に親しみを感じる世代に、オンラインイベントをきっかけに、番組に興味を持ってもらう導線ができた。

【当社の総括】

今回のオンラインフォーラムは、学生の皆さんが主体となり、企画から配信までを行いました。学生らのやりたいことを聞きながら、どうすれば受け手に想いが伝わるのかについて会議を重ね、無事に配信までたどり着くことができました。

今回のテーマ「メディアのプロと考える これからの課題の“伝え方”」について、リスナーに向けてどのような伝え方をすればよいか、まずは学生らと放送局のスタッフが一緒に考えました。普段は、いわゆる放送の“プロ”と打ち合わせし、放送を行っていますが、今回は放送（配信）することの経験が浅い学生らと作り上げることで、私たちも“伝える”ことの難しさ、議論することの大切さを改めて学ぶことができました。そんな苦労した点が、配信内容や手順にも反映できたのではないかと思います。

従来のラジオ放送では、ラジオ側の情報がやや一方通行になりがちですが、今回、リスナーの立場に近い学生の皆さんとプロジェクトを進めることにより、双方向のコミュニケーションの大切さに気付かされました。SNSなどのツールにより、これまで以上

2021年度民放連メディアリテラシー活動助成事業 実施概要

にリスナーとコミュニケーションを取りやすい時代になっているので、今回の経験をもとに、一方通行の情報にならず、常に双方向を意識した放送に取り組みたいと思います。さらにその中で、今回登場いただいた“プロ”の伝える技術を局全体で磨き上げていければと考えています。

以 上